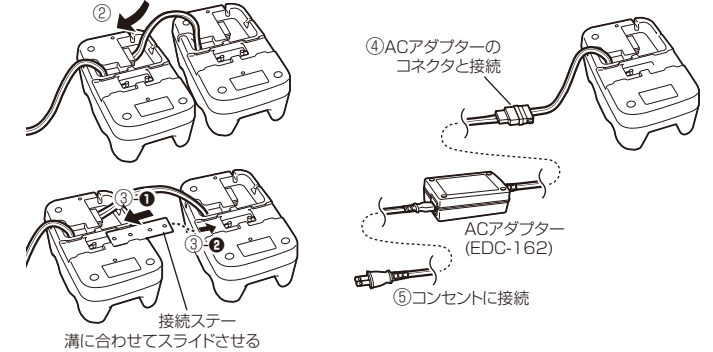


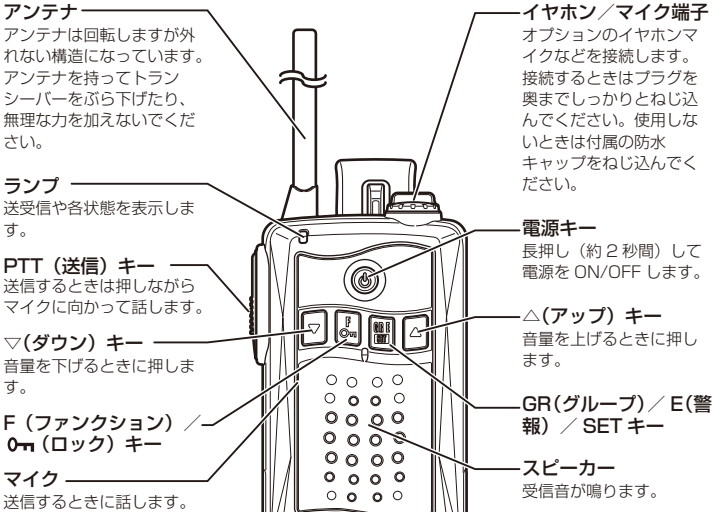
接続スタンド EDC-158R による充電

EDC-158R を使用して接続充電する場合、必ず大容量の AC アダプター EDC-162 が必要です。

- AC アダプターが EDC-162 であることを確認します。
- スタンドのコネクタどうしを接続します。スタンドは最大 4 台まで連結できます。
- 付属の接続ステーをスタンド底面の溝に合わせてスライドさせます。確実にスタンドどうしが固定されたことを確認してください。
- AC アダプターのコネクタを、端のスタンドのコネクタに接続します。
- AC アダプターを家庭用コンセント AC100V に接続します。
- トランシーバーまたはバッテリーパック単品を充電スタンドのポケットに挿入します。充電が開始され赤色ランプが点灯します。スタンドを 4 台連結して、最大 8 台までのトランシーバーまたはバッテリーパック単品を同時に充電することができます。
- 充電が完了すると赤色ランプが消灯します。



各部の名前とはたらき



注意	マイク穴にシール類を貼り付けしないでください。送信する際の音声を拾わなくなります。
-----------	---

注意	イヤホンマイク製品をご使用になる際は、ケーブルに無理な力が加わって断線しないよう、取り扱いにご注意ください。
-----------	--

基本操作

本機の基本となる操作方法を説明します。

本書に記載していないカスタマイズ方法や拡張機能については弊社ホームページをご覧ください。
http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」スマートフォンなどで本機背面の QR コードを読み取り、弊社ホームページにある取扱説明書を参照することができます。

音声ガイダンス

本機はチャンネルやグループなどの設定内容、および各状態を音声でお知らせします。

キー操作

「キーを押す」とは、押してすぐに離すことを指します。「キーを長押しする」とは、2 秒間押し続けることを指します。「A キーを押しながら B キーを押す」とは、A キーを押している間に B キーを押してすぐに離すことを指します。

電源を入れる

電源キーを長押しします。ランプが青色に点灯し、チャンネルとグループを音声でお知らせします。電源を切るときも同じ操作をします。

メモ	電源が入っているときに電源キーを押すと、チャンネルとグループを音声でお知らせし、設定内容を確認することができます。
-----------	---

イヤホン断線検知機能

イヤホン製品を接続している状態で電源を入れたときに、自動的に接続状態を確認します。断線しているとランプが赤色と緑色の交互点滅をするとともに「イヤホンが断線しています」が鳴ってお知らせします。プラグが緩んでいないか接続状態を確認し、故障していたら新しいものにお取り替えください。

音量を調整する

▽／△キーを押す「ピッ」という音が鳴り音量が切り替わります。キーを押し続けると連続して音量が切り替わります。▽／△キーを同時に押して離すと「ザー」というノイズが鳴り音量調整の目安となります。適切な音量に調整してください。

注意	イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。音量を大きくし過ぎると聴力障害の原因となるおそれがありますので、小さい音から徐々に上げて調整してください。
-----------	---

送信する

PTT キーを押しながらマイクに向かって話します。ランプが赤色に点灯します。PTT キーを離すと受信待ち受け状態になります。

メモ	中継器を介した通話をおこなう際は PTT キーを押し続けます。「ピピ」という音が鳴って中継器にアクセスします。そのまま PTT キーを押しながらマイクに向かって話します。
-----------	---

注意	一定の強さ以上の信号を受信しているときはキャリアセンスが動き、「プププ」という警告音が鳴り送信できません。信号が無くなるのを待って送信してください。ガイダンス音量を OFF に設定しているときは、警告音は鳴りません。
-----------	--

コールトーン機能

送信中に▽／△キーを押すと呼び出し音が送出され、相手と呼び出すことができます。ガイダンス音量を OFF に設定しているときは、呼び出し音は鳴りません。

受信する

信号を受信するとスピーカーやイヤホンから相手の声が聞こえます。ランプが緑色に点灯します。

メモ	本機にはテールノイズキャンセラー機能が搭載されており、受信終了時の「ザッ」というノイズが低減されています。本機能を搭載した弊社機器間の通話においてのみ有効です。
-----------	--

チャンネル設定

交互通話 20 チャンネル、中継通話 27 チャンネルの中から使用するチャンネルを選択してください。△（アップ）キーを押しながら電源を入れます。ランプが黄色に点灯し「チャンネルを選択してください」が鳴ります。▽／△キーを押してチャンネルを選択してください。選択したチャンネル番号が鳴ります。そのまま 5 秒間放置するか、PTT キーを押すと設定が完了します。

	▽／△キーを押してチャンネルを選択します
交互通話	L1 ～ L9、B1 ～ B11（20 チャンネル）
中継通話	L10 ～ L18、B12 ～ B29（27 チャンネル）別途、中継器が必要です。

メモ	キーロック解除中は F キーを押しながら▽／△キーを押すことによってチャンネルを選択することができます。
-----------	--

グループトーク機能

同じグループの人とだけ通話したいときはグループトーク機能を設定します。同じグループのトランシーバーはすべて同じグループ番号としてください。グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。

グループトーク機能の設定

GR（グループ）キーを押します。「グループ、オン」が鳴り機能が有効になります。もう一度キーを押すと「グループ、オフ」が鳴り機能が無効になります。

グループ番号の設定

▽（ダウン）キーを押しながら電源を入れます。ランプが紫色に点灯し「グループを選択してください」が鳴ります。▽／△キーを押してグループ番号を選択してください。選択したグループ番号が鳴ります。そのまま 5 秒間放置するか、PTT キーを押すと設定が完了します。

メモ	キーロック解除中は GR キーを押しながら▽／△キーを押すことによってグループを選択することができます。
-----------	--

キーロック

キーロックしておくと誤操作を防止できます。

簡易キーロック

0m キーを長押しします。「キーロックを設定しました」が鳴ります。解除するには同じキー操作をします。「キーロックを解除しました」が鳴ります。

通常キーロック

0m キーと GR キーを同時に長押しします。「キーロックを設定しました」が鳴ります。解除するには同じキー操作をします。「キーロックを解除しました」が鳴ります

メモ	キーロック中に無効なキー（F、GR）を押すと「簡易キーロック中です」あるいは「通常キーロック中です」が鳴って操作できないことをお知らせします。キーロック中も電源キー、PTT キー、▽／△（音量）キーは操作可能です。
-----------	---

セットモード

各種機能を用途やお好みに応じてカスタマイズすることができます。

セットモードにする

F キーを押しながら GR キーを押します。ランプが黄色点滅しセットモードになります。「セットモード」と鳴った後に、「1（No.）」→「電池選択」→「乾電池」が鳴ります。項目の選択は GR キーを押すと順送り、F キーを押すと逆送りします。設定値の切り替えは▽／△キーを押します。選択した番号、項目、設定値を音声でお知らせします。PTT キーを押すと設定が完了し受信待ち受けに戻ります。セットモードで 1 分間キー操作しないと自動的に受信待ち受けに戻ります。

No.	項 目	設 定 値	初期値
1	電池選択	乾電池／リチウム電池	乾電池
2	コンバンダー（雑音低減）	OFF／ON	OFF
3	PTT ホールド（送信保持）	OFF／ON	OFF
4	VOX（音声検知送信）	OFF／Low／High	OFF
5	コールバック（音声モニター）	OFF／ON	OFF
6	エンドビー（送信終了音）	OFF／ON	OFF
7	秘話	OFF／ON	OFF
8	ベル（呼び出しお知らせ）	OFF／ON	OFF
9	ガイダンス音量	OFF／Low／High	Low
10	送信出力	High(10mW)／Low(1mW)	High(10mW)
11	緊急通報機能（E キー長押し）	OFF／ON	OFF
12	オートパワーオフ	OFF／30 分／1 時間／1 時間 30 分／2 時間	OFF
13	受信音ミュート（接客モード）	OFF／ハンド／タッチ／ボイス	OFF

メモ	エンドビー（送信終了音）は送信側から発せられるため、機能を ON/OFF する際は送信側機器を設定してください。
-----------	--

セットモードの詳細内容や拡張機能については弊社ホームページをご覧ください。
http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」スマートフォンなどで本機背面の QR コードを読み取り、弊社ホームページにある取扱説明書を参照することができます。

緊急通報

セットモードで本機能を ON に設定すると、緊急通報を発することができます。E キーを長押しします。自機のスピーカーから警報音が鳴るとともに、緊急通報信号を送信します。信号を受信したトランシーバーからは警報音が鳴ります。

チャンネルとグループ番号の自動設定

ACSH「アクシュ」モード（Auto Connect Shake Hands）について説明します。

既に使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号をスキャンして検出し、本機に同じものを自動設定する機能です。キー操作によるチャンネルとグループ番号の設定作業が省略できます。本機能は交互通話および中継通話においてご使用頂けます。

概要



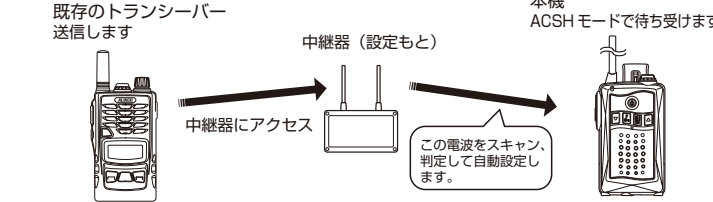
ACSH「アクシュ」モード

- 電源を切った状態で電源キーを約 7 秒間押し続けます。途中で起動音が鳴りランプが青色点灯しますが、そのまま押し続けます。
- 「アクシュモードです」と鳴り、ランプが青色と緑色の交互点滅をします。複数台を同時に設定する場合は、他の個体も同じ状態にします。
- 「設定もととなるトランシーバーを送信してください」と鳴り電波のスキャンを始めます。
- 設定もととなる既にご使用中のトランシーバーを送信状態にします。このまましばらくお待ちください。
- 電波を検知すると「ピピ」「自動設定が完了しました」と鳴ります。自動設定された通話モード、チャンネル、グループ番号が鳴ります。
- 自動的に本機の電源が切れます。電源キーを長押しして電源を入れ直してください。

注意	本機を ACSH モードにして既存機器が発する電波を受信し、自動設定が完了するまでの時間は数秒から最大で 2 分程度を要することがあります。 ACSH モードを起動し本機が電波をスキャンしているときは、送信側（設定もと）機器のマイクから音声が入らないようにご注意ください。音声により信号が乱されて正常に判定できないことがあります。 グループ番号の検出においてトーン周波数が近いものは動作が不安定であったり、誤判定定することがあります。（例：01 番「67.0Hz」と 39 番「69.3Hz」など）数回スキャンを試みても誤判定する場合は、グループ番号を 01 ～ 38 番の範囲に設定してご使用ください。 ACSH モードでの自動設定は、外来電波による誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。自動設定中は電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。 ACSH モードで自動設定が完了すると、誤操作を防ぐためキーロックが設定されます。自動設定後にキー操作でチャンネルやグループ番号を変更する際は、キーロックを解除してからおこなってください。またリセットすることにより ACSH モードで自動設定した内容は消去されます。
-----------	---

中継り機とするとき

中継り機として自動設定する際は、中継器が発する電波を受信する必要があります。本機を ACSH モードにして、既存のトランシーバーから中継器にアクセスします。中継動作中に自動設定がおこなわれます。



注意	中継器から発せられる電波をスキャンするときは、グループ（トーン）信号が正常に判定できないことがあります。機器によりグループ（トーン）信号の波形や精度が異なるためであり、このようなときはグループ番号を 01～38 番の範囲に設定してご使用ください。
-----------	---

減電池お知らせ

電池の電圧が低下するとランプが青色点滅してお知らせします。さらに電圧が低下すると点滅周期が速くなるとともに、セットモードで乾電池を選択していると「電池を交換してください」、リチウム電池を選択していると「充電してください」が定期的に鳴りお知らせします。

リセット（初期化）

電源を切った状態で F キーと電源キーを同時に 5 秒間押し続けます。途中でランプが青色点灯しますが、そのままキーを押し続けます。ランプが白色点灯に変わり「初期化しました」が鳴ります。チャンネルやグループおよびセットモードの設定内容は初期化されます。

故障とお考えになる前に

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。 ランプが点かない	電池の入れ方が間違っている。 電池の電圧が低下している。	電池を正しく入れ直してください。 新しい電池と交換してください。 充電電池を充電してください。
音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。 相手とチャンネルが違う。 相手とグループ番号が違う。 相手と距離が離れすぎている。	適切な音量に調整してください。 同じチャンネルに合わせてください。 同じグループ番号に合わせてください。 通信距離を目安に通信してください。
送信できない。	信号を受信している。 3分の通信時間制限を超過している。	信号がなくなってから送信してください。 PTT（送信）キーを離し 2 秒経過してから送信してください。
キー操作できない。	キーロックされている。	キーロックを解除してください。
充電しない。	充電端子が汚れている。 充電電池が劣化している。	充電端子の汚れを取り除いてください。 新しい充電電池に交換してください。

処置を施しても異常が続くときはリセットしてください。電池の電圧が低下していると誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

オプション一覧

EBP-70 リチウムイオンバッテリー
EDC-158R ツイン充電器セット
EDC-184A シングル充電器セット
EME-32A イヤホンマイク カナル型
EME-62A 咽喉イヤホンマイク カナル型
EME-64A ヘッドセット
EME-59A イヤホンマイク 耳かけ型
EME-69A イヤホンマイク オープンエア型
EMS-62 スピーカーマイク IP54 相当 ＊
EDS-14 プラグ変換ケーブル
＊スピーカーマイクは PTT ホールド機能、VOX 機能、コールバック機能をご使用になれません。

EDC-162 連結充電用 AC アダプター
EME-58 ストラートコードイヤホン 耳かけ型
EME-48A イヤホンマイク 耳かけ型
EME-63A ヘルメット用ヘッドセット
EME-36A イヤホンマイク カナル型
EME-65A イヤホンマイク 耳かけ型
EME-70A イヤホンマイク カナル型
EMS-71 スピーカーマイク IP67 相当 ＊
EBC-55 ヘルトクリップ

定格

送受信周波数	422.0500 ～ 422.1750MHz ／ 422.2000 ～ 422.3000MHz 421.5750 ～ 421.7875MHz ／ 421.8125 ～ 421.9125MHz（受信） 440.0250 ～ 440.2375MHz ／ 440.2625 ～ 440.3625MHz（送信）
周波数制御チャンネル	422.1875MHz、421.8000MHz（受信）、440.2500MHz（送信）
電波形式	F3E（FM）、F1D（FSK）
送信出力	10mW、1mW
受信感度	－14dBu（12dB SINAD）
音声出力	400mW 以上（本体スピーカー）／ 80mW 以上（外部出力）（8Ω負荷）
通信方式	単信、半複信
定格電圧	DC3.7V ／ 4.5V
消費電流	送信時：約 68mA（Hi）／約 55mA（Lo） 受信定格出力時：約 100mA（外部出力 50mW ／ 8Ω負荷） 受信待ち受け時：約 73mA バッテリーセーブ時：約 20mA
動作温度範囲	－10 ～ +50℃（充電は 0 ～ +40℃）
寸法	高さ 94mm× 幅 54.8mm× 厚さ 27.3mm（突起物除く） アンテナ起立時全高 165.4mm
重さ	約 97g（ヘルトクリップ含む、電池除く）

- 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。